

かんちけん倶楽部

2008年度乾燥地研究センターの研究活動

○「乾いた大地 砂漠 —限りある水をめぐる科学と知恵—」展示イベント

期 間：平成20年7月18日～7月27日

会 場：NHK大阪放送会館・大阪歴史博物館（アトリウム）



写真は、テープカットの様子。左から恒川乾燥地研究センター長、
秦 NHK 大阪放送局広報部長、能勢鳥取大学長

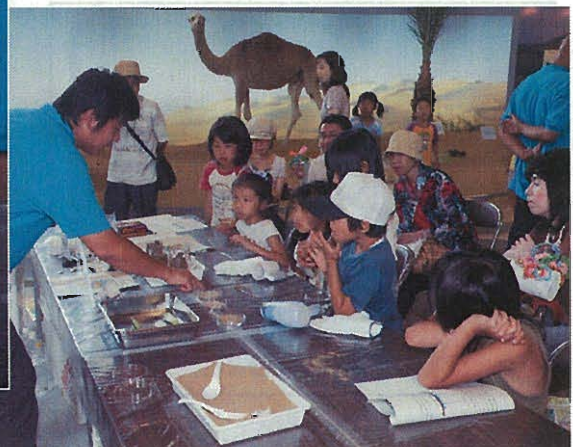
「乾いた大地 砂漠」をメインテーマとした展示イベント開催しました。2007年3月にも東京・国立科学博物館において同様の展示イベントを実施したが、今回は特に「限りある水をめぐる科学と知恵」に焦点を当て、世界の水をめぐる状況や水資源研究の最前線に焦点をあて解説を行った。また、平成19年度に採択された鳥取大学のグローバルCOEプログラム「乾燥地科学拠点の世界展開」の研究内容等についても紹介した。

国民に砂漠についての親しみをもつていただくために設けた砂絵コーナー、昆虫や塩害の実験コーナー、風紋観察コーナー等も人気が高く、多くの人で賑わった。展示物の説明は、乾燥地研究センターを中心とする、ポスドクや大学院生、若手研究者の科学コミュニケーションの能力を高めることができ、人材育成の面においても有意義な場となった。

期間中、3万1千人を超える入場者があり、鳥取大学のアウトリーチ活動の一環として、鳥取大学及び乾燥地研究センターの活動を広く国民に知っていただく良い機会となった。



塩害実験の様子



2008年度乾燥地研究センターの活動報告

○日中合同公開セミナー

平成20年9月8日～9日に本センターにて、中国科学院水土保持研究所との合同セミナーを実施しました。中国からは、25名の研究者が来鳥し、2日間に渡り、中国・黄土高原での研究成果等について、双方の参加者による全体討議、来年度以降の研究内容等の検討を行いました。



○研究交流促進事業

(大学院生の海外での研究活動に対する支援：平成20年度22名)

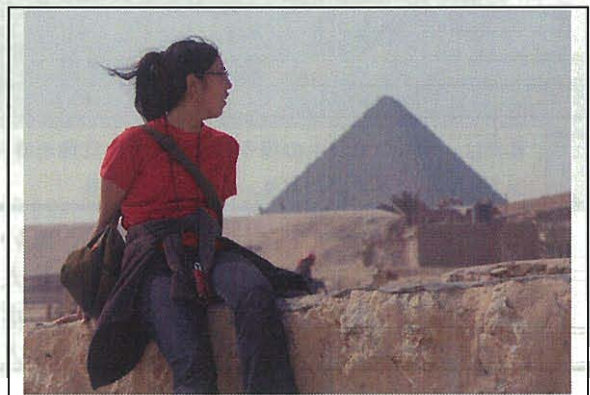
<鳥取大学大学院連合農学研究科 山本 彩>

植物生産分野に博士課程から在籍し、早2年が経過しました。現在、アフリカ・サハラ砂漠南縁部のサヘルと呼ばれる乾燥地における、干ばつ災害の発生メカニズムや傾向、影響についての研究を行っています。

「干ばつ」は日本人にとっては馴染みの薄い災害ですが、世界中で、毎年のように多大な被害を及ぼしています。それは決して遠い国の話だけではなく、少なからず私たち日本人の生活に影響を及ぼしています。

2008年11月に、エジプトで開かれた国際

会議「第9回 International Conference on Dryland Development」に参加してきました。様々な国や研究機関が参加したこの国際会議を通して、各国や研究者たちが、今どのようなことに注目しているのか、砂漠化や干ばつに対してどのように考え、取り組んでいるのかを知ることができました。また、各国の研究者をはじめ、多くの方々から自身の研究への様々な意見や助言を聞くこともできました。これらの経験を通して、自分の研究が世界に必要とされているのだという自信を持つこともできました。今後も、今回の国際会議で得たたくさんの経験や知識、自信を基に、自身の研究への責任をもってがんばりたいと思います。



○乾地研のひと

< 准教授 安藤孝之 >

昨年4月に独立行政法人国際協力機構（JICA）から、社会経済分野の准教授として出向して参りました。鳥取大学とJICAとの関係は既に20年を超えますが、私も1993年にJICA農業開発協力部で鳥取大学のプロジェクト「メキシコ合衆国沙漠地域農業開発計画」を担当して以来ですので、既に15年を超えています。

その後2002年にJICAメキシコ事務所に赴任し、再び鳥取大学とのおつきあいが始まることとなりました。この時は以前のプロジェクトが行われていたカリフォルニア半島のゲロネグロからおおよそ600キロメートル南のラパスという町に場所を移して、「乾燥地域における農業及び農村振興」という開発パートナー事業が行われていました。ラパスへは公私にわたり数回訪問させていただき、この時に多くの鳥取大学の方と知り合うことができました。

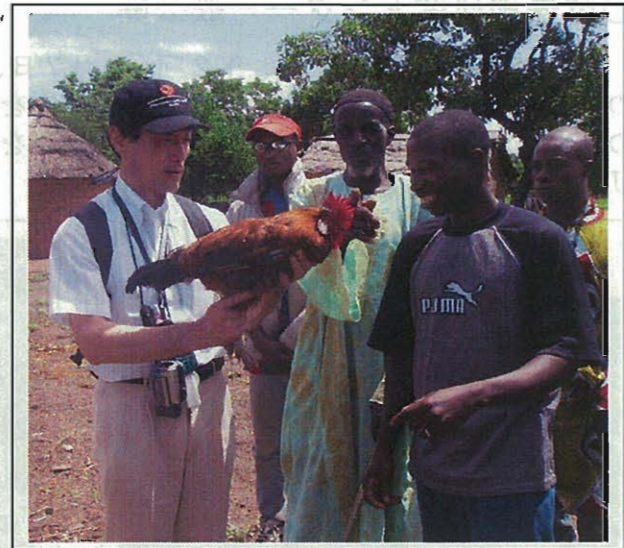
そのころゲロネグロでは鳥取大学での留学を終えて帰国したラウル所長がJICAプロジェクトの終了後も協力の成果を発展させ、周辺の農家への指導も地道に行っており、地域の人たちからの信頼を集める一方、鳥取大学の良きパートナーとして活躍していました。

実はずっと後に知ったのですが、JICAのプロジェクトが終わると程なくして試験場の農場は砂に埋もれてしまったそうです。そこへラウル所長が鳥取大学での留学を終えて帰国し、この様子を目の当たりにすると、早速職員全員にスコップを持たせて砂を取り除くよう指示しました。すると職員の一人が「スコップよりトラクターの方が早いですよ」と言ったところ、ラウル所長は「毎日きちんと管理をしていればこのようなことにはならなかった。スコップで砂を一杯一杯取り除きながら、自分の怠慢さを反省するように」と言ったそうです。

国際協力でも最も大切なのは人だと思えます。鳥取大学では「技術」のみならず「心」をも伝えた結果、このようなすばらしい成果が得られたものと思えます。プロジェクトの成

果としては測定が難しく評価の対象とはされにくい信頼関係を大切にし、人造りに成功した結果、メキシコ海外実践教育をはじめとする現在の海外の拠点形成の基礎になっています。

このようなすばらしい国際協力の理念のもとに成果を上げている鳥取大学の一員となれたことを誇りに思うと同時に、少しでも貢献できるよう努力いたしますので、何卒よろしく願い申し上げます。



○乾燥地研究センター一般公開

乾燥地研究センターでは、年2回(8月7日、10月)、センターの研究活動を広く一般のみなさまに知っていただくため、一般公開を実施しています。当日は、講演会、大好評のメロン販売、砂漠クイズ、研究室紹介などを行います。

URL : <http://www.alrc.tottori-u.ac.jp/>



○2009 鳥取・因幡の祭典『世界砂像フェスティバル』4/18-5/31

乾燥地研究センターからは「鳥取砂丘発見館」に砂にまつわる展示を出展します。一般公開でもおなじみの風紋(ふうもん)実験装置なども展示します。

URL : <http://www.tottori-inaba.jp/sazo-festival/top.html>

○乾燥地学術標本展示室等の休日公開

乾燥地研究センターでは、土・日・祝日に「ミニ砂漠博物館」を公開しています。センターまでは、ループ麒麟獅子号をご利用ください。

乾燥地研究センターへのアクセス

【ループ麒麟獅子号】

土・日・祝日(元日は除く)・夏休み(7月20日～8月31日は毎日)運行
運行時間等詳細は、鳥取市観光協会ホームページ「ループ麒麟獅子バス」を参照ください。

URL : http://www.torican.jp/roop_bus/

【とっとり乾地研倶楽部の設立趣旨】

砂漠化防止や乾燥地農業について世界的に貢献している鳥取大学乾燥地研究センターは、世界の乾燥地研究ネットワークの中核として学術研究、人材育成に大きな役割を果たしており、地域に取っても世界に誇るべき知的財産です。

そこで、鳥取大学乾燥地研究センターの活動を地域で支え、その研究活動と研究成果を広く情報発信することを通じてこの地域の発展を図るために「とっとり乾地研倶楽部」を設立しました。

発行：とっとり乾地研倶楽部事務局
鳥取商工振興協会 〒680-0031 鳥取市本町3丁目201番地
TEL (0857) 26-6886 FAX (0857) 22-0155